

シンポジウム「2030年SDGsゴールに向けて－No.5ジェンダー」について

日本大学国際関係学部
生活科学研究所長 四之宮玲子

長引く新型コロナウイルス禍にも関わらず、一般の方々のご参加、関係者の協力によりまして、2021年度シンポジウムを対面およびオンデマンド配信を合わせたハイブリッド方式にて開催できたことを、心より御礼申し上げます。

今回のシンポジウムのテーマである“SDGs”は、近年耳にする機会が多くなり、今年はメディアでも頻繁に取り上げられるようになりました。また、本学で中期目標として掲げている「持続可能な開発目標（SDGs）の推進」を受け、シンポジウムを開催する運びとなりました。

SDGsは、2030年までに「持続可能でよりよい世界を目指す」という国際目標です。そして17のゴール、169のターゲットが設けられ、「誰一人取り残さない（leave no one behind）」とコンセプトが掲げられています。今回は、目標5番目（No.5）のジェンダーが中心テーマです。ジェンダーという言葉も、近年さまざまな意味合いをもち、使われるようになりました。シンポジウムは、この視点をもって国際的な視野に立ち、難民支援や国際法、感情労働や家族などとの関連で、講演・研究発表、ディスカッションという2部で構成しました。講演者に国連UNHCR協会の中村恵様をお迎えし、UNHCRの難民支援について具体例を挙げながらご講演いただき、研究発表を本学教員により進めました。そして学生を含めたパネルディスカッションでは、活発な意見交換が展開されました。

2020年からSDGs「行動の10年」の期間に入りましたが、新型コロナウイルスによって2030年の目標達成がより困難となりました。しかし世界中がこのような困難な時期にあるからこそ、様々な場で一人一人が取り組む意義があります。達成にとって必要な行動は何か、ジェンダーの視点、ジェンダー研究がなぜ重要なのか、SDGsの目標に入っているのか、などを一緒に考え、新たな局面を切り拓いていく一助となりましたら幸いです。